

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

『やさしいっばい』『ともだちっばい』『みんないきいき』瀬ヶ崎っ子

- 「分かる授業」「楽しい授業」を目指して、一人ひとりの子どもをより確かに理解し、学習内容を確実に身につけられるように取組を進め、確かな学力・人間性豊かな子を育てます。(知)
- 子ども同士のかかわりを深め、互いに違いを認め、いじめや差別のないなまづくりを進め、偏見や差別に対して、「おかしい」と言える子を育てます。(徳)
- 「早起き」「朝ごはんの規則正しい生活をする姿勢を培うとともに食教育を進め、自分や人の生命と体を大切に健康でたくましい子を育てます。(体)
- 家庭や地域と連携を図りながら、自分たちの住んでいるまち「せがさき」をはじめ、金沢区や横浜に誇りをもてる子を育てます。(公)
- 様々な人とのコミュニケーションをとらえて、もの見方や考えかたを広げようとする子を育てます。(開)

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

コミュニケーション力  
問題発見・解決能力  
自分づくりに関する力

具体化した資質・能力

- 人間尊重の精神に基づき、豊かな人間関係を築いていく力を育みます。
- 身近にある偏見や差別に気づき、それに向き合い、それをなくしていくという心情と行動力を育みます。
- 自然体験や社会体験を通して自ら問題をとらえ、それを主体的に解決していく力を育みます。

中期取組目標

- まちとともに歩み、「だれもが」「安心して」「豊かに」すごせる学校にします。
- ・子どもに寄り添い、一人ひとりを大切にするとともに、その教育に情熱と使命感をもって臨む教職員集団を目指します。
- ・学校教育目標の具現化と諸課題の解決に向かって、教職員が一体となって取り組める組織作りに努めます。
- ・子どもたちが、主体的に学ぶということを大切にして、授業改善に努めます。
- ・家庭や地域とのかかわりを豊かにし、結びつきを強めていくとともに、協働して人権教育の充実した特色ある学校づくりに努めます

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①人権教育を通して育てたい資質・能力を明確にしていくと共に、小中ブロックで共有していく。 ②人権教育を基盤とした、本校のよさを活かしたカリキュラムマネジメントの推進と教育課程の検証、改善を行う。 ③スタンダードを基に、教職員、児童が多くの他の人とのつながりから自尊感情、人権意識を育む。 ④ちがいがや多様性を認める学びやつながりを大切にして、一人ひとりと丁寧に関わる。
担当	重点推進委員会

豊かな心に関わる本校の状況
本校の児童は、素直な気持ちをもっており、落ち着いた学習に取り組んだり、元気に活動したりすることができる。一つ上の学年を自分たちの目指す姿とし、「あのような立派な話ができるようになりたい」「上級生の真似をしたい」と強く感じて、集団を高めることができる。自尊感情が比較的高く、自分のことを「好き」と答える子は多いが、一方で友達と意見が対立することを避けようとしていたり、いやなことは「いや」ということができなかつたりする場面も見られる。学習に対する意欲があり、関心のある問題には進んで取り組むことができる。意欲が外発的動機に左右されることがあり、友達思いで優しいという良さを、十分に発揮できない場面も見られる。また、校内では規範意識が高いが、日常的に行うことができるようには至っていない。道徳的な価値を伝えることを通して、自分の価値観を確立するきっかけとすることができるようにしたい。

今年度の目標
学級や学年、異学年集団での関わりを通して、互いの良さを見つけたら、自分や友達を大切にしたりできるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学級や学年集団の中では、まずは話を聞くことを大切にしていこう。話し手は聞き手の方に体を向けて立って話すことで、誰が話しているのかを分かりやすくし、聞き手は話し手の方に体を向けて最後まで聞くことを指導していく。</li> <li>○互いの良さを見つかけられるように、帰りの会などの活動の中で、良いところを認め合える時間を設けていく。</li> <li>○校外学習や宿泊学習などの行事を通して、友達同士の関わりを深め、互いの良さを見つかけられるようにする。</li> <li>○なかまタイム(縦割り活動)では、異学年集団の遊びの中で、学年に応じた目指す行動を意識できるようにする。</li> <li>○(低学年)なかまと出会い、なかまとともに活動することを楽しむ。</li> <li>○(中学年)なかま一人ひとりのよさに気づき、力を合わせて活動しようとする。</li> <li>○(高学年)グループのリーダー的な役割を自覚し、グループをリードする時の喜びや悩みを共有しながら、なかまのかかわりを深め、共に問題を解決しようとする。</li> </ul>
下半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツフェスティバルでは、団体演技や縦割り種目の中で異学年での交流を深めていく。特に団体演技は、1・2年、3・4年、5・6年のペア学年で行い、上学年が下学年に演技を教える師匠と弟子の関係になり、師匠はどうやって教えたか弟子がうまくなるのかを考えて関わり、弟子は次年度の自分を想像して師匠の姿から関わり方を学べるようにする。また、スポーツフェスティバル本番前後には互いに激励のメッセージを送り合い、これまでの頑張りも含めて認め合う姿をめざしていく。</li> <li>○ふれあいフェスティバルでは、他学年や地域の方との交流をもとに学んできたことを発表する。いろいろな関わりの中で学びを深めるとともに、互いの良さを見つかけられるようにしていく。</li> <li>○なかまタイム(縦割り活動)では、6年生中心の活動から5年生中心の活動へと変わっていく中で、それぞれの学年の役割の変化に気づき、かかわり方の変容をねらっている。また、卒業に向けての取組をなかまグループで行い、卒業に向かう6年生の姿から下学年が学べるようにする。</li> </ul>